



令和5年3月24日

第145号

# 八代高校・八代中学校PTA会報

<https://yatsushirohighschool.com/>



▲ホームページ QRコード

特集1 高校卒業式

特集2 中学卒業式

● PTA表彰および各種表彰



# 特集1 高校卒業式

## 式辞



校長 岩本修一

遠くから聞こえる八代海の潮音にも春の訪れが感じられ、万物新しき生命の躍動を再開する早春の佳き日に、熊本県教育委員会から、教育委員 田浦かおり様御同席のもと、平素より本校教育にお力添えをいただいております熊本県議会議員 小早川宗弘様、同窓会会長 村山忍様、PTA会長 富晃之介様、並びに多数の保護者の皆様にご臨席を賜り、ここに「令和4年度熊本県立八代高等学校第75回卒業証書授与式」を挙げてまいります。この上ない喜びであり、光栄の至りでもあります。心より厚く御礼申し上げます。

ただいま、卒業証書を授与した233名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

そして、卒業生の保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。今、頼もしく成長されたお子様の晴やかな姿に、その感慨も一入のことと拝察いたします。

さて、卒業生の皆さんを取り巻く社会は、新しい時代への大きな転換期にあり、2015年に国連サミットで採択された地球上の誰一人として取り残さないことを

誓った持続可能な開発目標SDGsの実現に向け世界は今、一つとなり様々な機会が共通認識を高め動き出しています。そのような中、グローバル化の進展に伴い、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることを、そして科学技術の進歩や政治・経済・文化の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となっております。

このような中、皆さんが新たな出発の第一歩を踏み出すにあたり、いくつかが希望を述べて、皆さんへの餞の言葉といたします。

一つ目は、「インテリジェンスをさらに高めて欲しい」ということです。

インテリジェンスは知能とも知性とも訳されますが、知能とは「もともと答えがある問いに対しての答えを導き出す能力」であり、知性とは「答えがはっきりしない問いに対して、答えらしき何かを見いだす能力」ではないかと考えられます。また、知性には人間や社会、自然などに対する柔軟な考えや人間性も含まれています。現代は、第四次産業革命のただ中にあり、デジタル化の進展や第五世代移動通信システム、いわゆる「5G」の整備普及などにより、自動運転や遠隔医療など、多くの産業を変えていく社会インフラになると期待されています。実際、令和2年7月豪雨で被災したこの八代市坂本町において医療体制推進を目的に、巡回型オンライン診療の実証事業が昨年末に開始されました。九州で初めての試み

として注目され、デジタル化の推進が被災地の復旧復興を後押ししています。このように社会の変化は、改善から革新へとそのスピードを飛躍的に速めてきています。従来の上では限界があった人間の能力を技術の進歩で拡張し、人工知能などによってより便利な社会へと変化しています。このような激しい変革の時代には、既存の考え方や価値観が通用しない、新しい発想と行動力が求められています。皆さん一人ひとりが、人間的知性を涵養し、知能と知性のバランスを高め、社会の変化に柔軟に対応できる有為な人材となることを期待いたします。

二つ目は、「豊かな心を原点に持つて欲しい」ということです。

16世紀に日本に初めて来航したフランシスコ・ザビエルは、ポルトガル国王への報告の中で、「日本は今までのどの国よりも優れている。美しい自然と礼儀正しく善良な国民である。」と報告しています。また、熊本大学の前身である、旧制第五高等学校で教鞭を執っていた小泉八雲は、講演の中で、「私は質素な習慣と誠実な生活は古来熊本的美徳であったと聞いている。将来、日本が偉大な国になるかどうかは、素朴、善良、質素なもの愛して、生活での無用な贅沢と浪費を嫌悪する心を、いかにして持ち続けるかどうかにかかっている。」と言っています。豊かな時代になっても、礼儀正しさ、素朴さ、謙虚さなど、求められる心の豊かさは変わりません。原点がしっかりとした精神が、原動力であり、行動を支える指針となり、枝葉や花ではなく、柱となる「幹」と、いつもは見えないけれど大切な「根」の役割を果たしていきます。本校教育の礎として70年間脈々と受け継がれてきた三綱領「一、誠実にして真理



を愛する 一、自律を旨として協和を重んずる 一、闊達にして進取の気象を尚ぶ」の精神をしつかりと胸に刻み、豊かな心が人生の根幹として確かなものになるよう、時には確認しながら人生を歩み続けて欲しいと願っています。

最後に、アメリカの思想家ソローの言葉を贈ります。

Life isn't about finding yourself, it's about creating yourself. 「人生は自分を見つけるためにあるのではなく、自分を創造するためにある」

結びに、御来賓並びに保護者の皆様には、御多用の中、御臨席を賜り、若人の門出に温かい祝福をいただき改めてお礼を申し上げますとともに、今後とも本校のさらなる発展のためにお力添えを賜りますようお願いいたします。

なごりは尽きませんが、卒業生の皆さんの前途に限りない期待を寄せ、幸多からんことを心より祈念し、式辞といたします。

この3年間に点数をつけるというたら何点をつけられるでしょうか。勉強のこと、部活のこと、友人関係のこと、家庭でのこと、学校外でのボランティア活動のことなどを振り返り、自分の3年間を100点満点で点数化してみてください。

保護者の皆様、先生方におかれましては、子ども達が進んでいくことを思い返し、どのような点数をつけるかを想像してみてください。何点くらいが理想でしょうか。

高い点数が付いた人も、低い点数が付いた人もいます。では、その点数を、自分自身でどのように付けたかを思い返してみてください。何を加点事由とし、何を減点事由としましたか。

何が聞きたいかというと、皆さんが、自分自身の時間を自分軸で評価することができたかということです。人は、自分の評価を他者との比較や他者からの評価軸で判断したり、うまくいかないことを

## 祝辞

PTA会長 富晃之介

本日の卒業証書授与式にあたり、本校PTAを代表して、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。また、長きにわたり各種PTA活動にご理解とご協力を頂き誠にありがとうございました。

先生方に於かれましては、子ども達を高校卒業まで導いていただきましたことを、保護者を代表して心よりお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、八代高校での3年間はどんな時間だったでしょうか。

他者のせいになりたりしがちです。しかし、他者から見てどんな恵まれていても本人は不幸だと感じていたり、他者からはどんなに苦しもうに見えても本人はその現状に幸福を感じていたり、若しくは苦難を乗り越えるために充実した時間を過ごしていたりと、成功や幸福の基礎はあくまでも主観的なもので、それを欠いた他人軸での成功や幸福は本質的なものではないはずです。

また、物事を他者のせいにする思考も決して生産的ではありません。

ここで、私が好きな、ラグビー元日本代表、福岡堅樹さんのエピソードを紹介させていただきます。

福岡さんは、福岡県の福岡高校出身、現在は30歳です。彼は、祖父が医師、父は歯科医という環境に生まれ、5歳からラグビーを始めました。足が速くラグビーの才能にも恵まれ、高校時代はチームを全国大会に導くなど活躍しながらも、高校卒業後は医師になるために医学部を目指しました。しかし合格できませんでした。

一浪後の2012年、彼は医学部ではなく筑波大学情報学群に入学しました。その後筑波大学ラグビー部に入り、さらにラグビーの才能を開花させ、2015年、2019年のラグビーワールドカップでは日本代表選手に選ばれ、大会を大いに盛り上げました。

彼はラグビー日本代表として華々しい活躍をしながらも、医師になるという目標を捨てずに勉強を続け、2020年に引退し、医師を目指す道を選択されました。第一線で活躍している選手の引退は、ラグビーファン、関係者の誰もがもったいないと思いましたが、彼がそのままラグビーを

続けていれば、今年、2023年のワールドカップフランス大会でもきっと活躍したはずですが、でも彼は、他人軸ではなく、自分の人生を大切にして主体的な選択をしたのです。

2021年、彼は順天堂大学医学部に入學され、現在は医師になるために一生懸命勉強をされています。今はラグビー部には入っておらず、ずいぶん年下の同級生と一緒に楽しく勉強をしているそうです。

このような経験、主体的な選択を経て医学部に入學されたからこそ、きつと素晴らしい医師になれるだろうと思います。

今日、八代高校を卒業し、それぞれの道を歩んで行かれる皆さんにおかれましても、是非とも主体的に、自分軸での充実、幸福を大切にして、人生の選択をしていってもらいたいと思います。

皆さんの人生は皆さん自身のものです。どんな時でも自分自身を大切にしながら、感謝の気持ちを忘れず、主体性を持って、努力、前進を続け、周囲の方々と相談し、連携をしていってください。そうすれば、まじめで底力のある皆さんですから、周囲に良い影響を与え、自ずと協力者が現れて、仮に失敗や苦難があっても結果として人生の糧とすることができるとは思います。

先が見えにくい世の中ですが、卒業生の皆さんの未来が明るく、楽しいものとなることを心から願っています。

最後になりますが、本日、このようなすばらしい晴れの席において祝辞を述べさせていただきました。万事を心より感謝申し上げます。八代高校のさらなる発展ならびに、ご列席の皆様のご健勝とご多幸を祈念しまして、私からの挨拶とさせていただきます。

謝辞



保護者代表 木村 正臣  
木村 美祐

桜の木の枝に、小さな赤い芽が付き、春の準備を始める季節となりました。

本日は私どもの子供たちのために、このように厳肅で盛大な卒業式を執り行っていただきました。本当にありがとうございます。まことに僭越ではございますが、卒業生の保護者一同を代表いたしまして、お礼の言葉を述べさせていただきます。

ご来賓の皆様におかれましては、公私とも大変お忙しい中、ご臨席いただき、暖かいお言葉をたくさん頂戴いたしました。これから新たな道を歩む子供たちにとって、大きな励ましとなったことと思っております。保護者一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

校長先生をはじめ教職員の皆様方には、コロナ禍での大変難しい学校運営が求められる中、様々なご努力や工夫により、多感な時期の子供たちの成長を支えていただきました。本当にありがとうございます。卒業生全員が新たな進路に進むことができるのも、先生方のご努力の賜物だと深く感謝しております。

制服にそでを通した子どもとともに、この高校の門をくぐったことが、昨日のように思い出されます。しかし、コロナの影響で多くの行事等が中止や縮小となり、学校での我が子の姿を見る機会がほとんどありませんでした。それだけに、本日は、最後となる子供の制服姿を改めて目にしますと、万感の思いが胸に迫ってまいります。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの高校生活はまさにコロナとの共生でした。マスクの着用をはじめ、様々な制約がある中でも、皆さんは何事にも前向きに取り組み、この未曾有の事態をたくましく乗り越え、今日のこの日を迎えることができました。とても価値ある素晴らしい事だと思います。

そして、今日、皆さんはそれぞれの新しいドアの前に立っています。同じドアは一つとしてありません。皆さんが自分自身で選んだドアです。ドアの向こうに何があるのかわかりませんが、この3年間でどんなことも乗り越える力がきつとついています。胸を張ってドアを開けていってください。先生方も、そして我々保護者も、新しい道へ進んでゆく皆さんを心から応援しています。

先生方にひとつお願いを申し上げます。本日それぞれの道に巣立っていく卒業生ではありませんが、この子たちが歩んでいく道は、決して平坦で穏やかなものとは言えません。時代の流れに翻弄され、時には悩み、立ち止まることもあるかもしれません。そのような時、ご指導いただいた先生方のことを思い出してほしい。これからも先生方のもとに教えを請いにまいりました時には、どうかご指導ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

また、保護者の皆さま、コロナ禍で保護者同士の交流があまりできませんでした。今後この八代高校での縁を深め、おつき合いのほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、八代高等学校のますますのご発展をお祈り申し上げますとともに、校長先生をはじめ教職員の皆様、そして本日ご参列くださいました皆様のご健康とご活躍をお祈りし保護者代表のあいさつとさせていただきます。



# 特集2 中学卒業式

## 式辞



校長 岩本 修一

八代平野を悠々と流れる球磨川の流れにも、春の息吹が感じられる季節となりました。本日は、熊本県教育委員会から、高校教育課審議員兼課長補佐 坂本憲昭様御同席のもと、日頃より本校教育にお力添えをいただいておりますP T A 会長 富晃之介様、同窓会会長 村山忍様、並びに多数の保護者の皆様に御臨席を賜り、ここに「令和4年度熊本県立八代中学校第12回卒業証書授与式」を挙行できますことは、この上ない喜びであります。心より厚く御礼申し上げます。

ただいま、卒業証書を授与した80名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは本校での3年間の学びをもって義務教育の課程を修了しました。

そして、卒業生の保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。今、頼もしく成長されたお子様の晴やかな姿に、その感慨も一入のことと拝察いたします。

さて、現代の社会は、新しい時代への大きな転換期にあり、2015年に国連サミットで採択された地球上の誰一人として取り

残さないことを誓った持続可能な開発目標SDGsの実現に向け、本校が所在するこの八代市は、昨年5月に「SDGs未来都市」に選定されました。

2030年の達成年限に向け世界は今、方向性を揃え様々な形で動き出しているところです。そのような中、環境にやさしい低炭素社会の実現、昨年世界の人口が80億人を超え増加している一方で国内における出生数が初めて80万人を下回るなど急速な少子化の進行による人口減少問題、デジタル技術を活用した生活サービスの維持と社会インフラの管理など、予測困難な近未来社会への対応が急がれています。

また、グローバル化の進展に伴



い、様々な文化や価値観を背景とする人々と、相互に尊重し合いながら地域社会の構成員として共に生きていくこと、そして科学技術の進歩や政治・経済・文化の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となっております。

このような中、義務教育を修了した皆さんが新たな出発の第一歩を踏み出すにあたり、いくつか希望を述べて、皆さんへの餞の言葉といたします。

一つ目は、「何事にも万全の準備をして臨んでほしい」ということです。

ワクチンによる予防接種の開発などの研究で多くの人々の命を救う業績を上げたフランスの生化学者ルイ・パスツールは、自らの研究過程を振り返り、次のような言葉を残しています。「偶然は、準備のない者には微笑まない」

偶然にできたように見える新しい発見であっても、あきらめることなく努力を継続し、準備をしてきた人のみが、その偶然を活かすことができるということです。自分にはできないと初めからあきらめたり、自分の可能性を過小評価したりせず、日々研鑽することを大切にしてほしいと願います。

The sky is the limit. 「可能性は無限大」との思いをしつかりと胸に刻み、皆さん一人一人が志を高くもちさらに飛躍することを期待しています。

二つ目は、「共感する心と感謝する気持ちを大切にして欲しい」ということです。

平成28年の熊本地震、令和2年の7月豪雨の発生、令和2年からこれまで新型コロナウイルス感染症拡大防止による影響など未曾有の出来事の中、皆さんは自らのことを考えつつ、周りの人と支え合い歩んできました。近い将来にも

新たな自然災害等が発生すると予想されていることも否応が無しに受けとめなければならない現実があります。これまでの経験を生かし、学んだ教訓や知見を後世に伝えるとともに、テクノロジーや情報化が進展しグローバルな時代の今だからこそ、人間性が問われ、様々な場面で出会う他者に対する優しさや共感する心が求められます。そのためには、日常から、人との関わりの中で、尊敬の念と感謝の気持ちを持ち合わせていることが大切です。感謝の気持ち、時には「ありがとう」の言葉を他者に伝え、当たり前のことを忘れないう、このような感性を持ち続けてください。

最後に、ドイツの哲学者ニーチェの言葉を贈ります。

First step is to respect yourself.

「はじめの一步は、自分への尊敬から」

結びに、御来賓並びに保護者の皆様には、御多用の中、御臨席を賜り、若人の門出に温かい祝福をいただき改めてお礼を申し上げますとともに、今後とも本校のさらなる発展のためにお力添えを賜りますようお願いいたします。

なごりは尽きませんが、卒業生の皆さんの新たなステージでの大いなる活躍に限りない期待を寄せ、式辞といたします。

## 祝辞

P T A 会長 富 晃之介

本日の卒業証書授与式にあたり、本校P T A を代表して、お祝いの言葉を述べさせていただきます。卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。皆さんの門出を春らしい暖かな太陽もお祝いしてくれていますね。



保護者の皆様、お子様の中学校ご卒業を心よりお祝い申し上げます。また、これまで各種P T A 活動にご理解とご協力を頂き誠にありがとうございました。

先生方に於かれましては、子ども達を中学校卒業まで導いていただきましたことを、本校P T A を代表して心よりお礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、八代中学校で過ごした3年間はどうな時間でしたか。

卒業生の皆さんは、3年前に本校を受験し、無事合格を勝ち取り、新たな環境、勉強、友人関係への希望と不安を胸にこの八代中学校の門をくぐられたことでしょう。

皆さんが八代中学に入学された令和2年は、新型コロナウイルスが猛威を振るい始め、それまで当たり前に行われていたことが軒並み中止や変更を余儀なくされ、周囲の人とのコミュニケーションのあり方が大きく変化しました。また7月には甚大な豪雨災害が熊本県を襲いました。

初めて会う同級生や先生がみんなマスクをつけていて、コミュニケーションの基本である相手の顔を覚える、相手の表情から気持ちを感じ取るといったことにも困難

があつたと思います。そんな中、勉強、部活動、友人関係など、いろいろなことがあつたと思います。

先生方におかれましても、子どもたちのコミュニケーションや各種行事の計画や実施において、本当にいろいろと大変だったと思います。

皆さんは、これまで誰も経験したことがない、社会構造の地殻変動が起きた3年間を、中学生という多感な時期に経験されました。そのような中でも、卒業生の皆さんは日々努力を続け、成長され、今日、義務教育課程を修了されました。本当におめでとうございませ

卒業生の皆さんには、今後とも変化を予測しにくい世の中ですが、この3年間の経験を活かしつつ、主体性をもって努力し、周囲の人とうまく連携協働しながら、自分自身が幸せだと感じる人生を創って欲しいと思っています。

私が好きなラグビーを代表する有名な言葉に、one for all, all for oneという言葉があります。この言葉は、一般的には「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と抽象的に訳されますが、正しくは、「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」という意味でとらえるべきと言われています。

ラグビーで言えば、正しいプレーで勝利するというチーム目的達成のために、一人ひとりがルールを学び、自分を鍛え、チームの一員であることに責任と誇りを持ち、仲間の一人ひとりを尊重、信頼しながら連携するという意味になります。

また、そのチーム目的には、自分のチームだけでなく、対戦相手、保護者、審判や準備段取りを行ってくれる人々への感謝やリス

ペクト、グラウンドへの感謝の気持ちを忘れず大切にすることにも含まれます。

このようなことを一人ひとりが大切にしなければならぬという前提とルールのもとで、一つのボールを奪い合い、体をぶつけあっているのです。もしも、その前提とルールを欠けば、ラグビーは単なる野蛮な喧嘩スポーツになり下がってしまうからです。

皆さんは八代中学校を卒業し、4月から高校生になられますが、この言葉の意味するところは、皆さんのこれからの学校生活や部活動、社会活動についてもきつと当てはまるはずですよ。

学校の目的は、生徒一人ひとりが主体的に成長でき、地域から応援される、よりよい集団を作ることだと思っています。

学校生活では、生徒の一人ひとりがプレーヤーであり、先生方がコーチ、事務方の皆さんが様々な準備や段取りを行います。保護者もそれをサポートして頂きます。学校の校舎やグラウンドが皆さんの主たるフィールドです。

これらすべてに対する感謝の気持ちを忘れずに、自分を大切にしながら、互いに尊重し合い、一人ひとりが主人公になれる学校を創って欲しいと思います。

卒業生の多くはこれまで通っていた八代高校に進学をされますので、環境面ではさほど大きな変化を感じないかもしれません。しかし、4月からは高校受験を経て、新たに八代高校に進学をしていく人がたくさんいます。3年前に皆さんが感じていたような不安や期待を胸に進学をしてください。

また、八代中学校から進学する皆さんはどんな人たちだろうか、うまくやれるだろうかといった不安も持っていると思います。

卒業生の皆さんには、八代中学校の卒業生であるという誇りを胸に秘めつつも、心を開いて、新たな同級生が皆さんとともに充実した学校生活を送れるように、主体的に八代高校を創って欲しいと願っています。

皆さんのこれからの行動が、八代中学校、八代高校のカラーや伝統を創っていくのです。

八代中学や八代高校が、みんなが行きたいと思える学校であるかどうかは、皆さん一人ひとりの考えや行動が決めていくのです。

皆さんは一人ひとりが大切な存在であり、一人ひとりが幸福を追求する権利を持っています。

その権利を他人が侵害することは許されません。

自分を大切にすること、自分を大切にすることです。

これから先、どんな時でも自分自身と周囲を大切にしながら、感謝の気持ちと忘れず、主体性を持って、努力、前進を続け、周囲の方々との連携・協働をしていってください。

そうすれば、まじめで底力のある皆さんですから、周囲に良い影響を与えることができ、皆さんが属する集団は明るく前向きな集団となり、仮にその中で摩擦や困難なことが発生しても、それを糧と捉えられるような学校にできるはずですよ。

先が見えにくい世の中ですが、卒業生の皆さんの未来が明るく、楽しいものとなることを心から願っています。

最後になりますが、本日、このようなすばらしい晴れの席において祝辞を述べさせていただきます。た事を心より感謝申し上げます。

八代中学校のさらなる発展ならびに、ご列席の皆様のご健勝とご多幸を祈念しまして、私からの挨拶とさせていただきます。

謝辞



保護者代表 岡田 裕美 灰本 孝志

暖かな春の訪れを感じるこの佳き日に、晴れやかに卒業の日を迎えることができました12期生80名の保護者を代表致しまして、お礼の言葉を述べさせていただきます。

本日は私どもの子どもたちのために厳粛かつ盛大な卒業証書授与式を挙行していただき、誠にありがとうございます。

校長先生をはじめ子どもたちを導いてくださいました諸先生方に保護者一同、心よりお礼申し上げます。また来賓の皆様におかれましては、公私ともにお忙しい中、ご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。

皆様からいただきました心温まるお祝いのお言葉と、励ましのお言葉は、子どもたちの胸に深く刻み込まれたことと思います。

3年前、真新しい制服に身を包み、あこがれの八代中学校の入学式を迎えた子どもたち。間もなく、新型コロナウイルス感染症の

影響で臨時休校や分散登校、マスク着用の中学校生活がスタートしました。

同級生と一緒に授業を受ける時間、会話をする時間も少なく、友達が出来たのだろうか、これから楽しく充実した中学校生活をおくることができるのだろうかと思配もいたしました。その時その時で自分たちが出来ることを考え、精一杯取り組み、絆を深め、充実した時を過ごしていったように思っています。

これも、コロナウイルスによる様々なリスクに対し気を遣い、環境を整えてくださった先生方のご尽力あつたことだと、感謝いたしております。

卒業生のみなさん。八代中学校での3年間はどのようなものでしたか。決して楽しいことばかりではなかったことでしょうか。辛いこともあつたと思いませんか。それ乗り越えてこられたのは、ここにいらっしゃる先生方、仲間たち、周りの方々の支えがあつたからだと思います。

これから将来の目標へ向かって進んでいくなかで、困難に遭遇することもあつたでしょう。しかし、八代中学校で様々な経験をされた皆さんならきっと乗り越えていけると信じています。あなたたちの未来が心身ともに健やかで充実したものでありますよう、心から願っています。

さて、本日こうして卒業していく子どもたちではありますが、まだまだ未熟でございます。今後変わらぬご指導をいただければ幸いです。

最後に、熊本県立八代中学校の益々のご発展と、校長先生はじめ諸先生方、また本日も臨席賜りましたご来賓の皆様のご健勝を心より祈念いたしましてお礼の言葉とさせていただきます。

# PTA表彰および各種表彰 表彰者一覧

## 高校卒業生

※( )は組。

### PTA賞

川上ももな(1) 荒田 和輝(6) 堀田 夏希(6)

### 同窓会賞

蓑田 陽香(2) 入田 蒼(4) 内野 亜慈(5)

### 熊本県がんばる高校生表彰

迫 心花(6)

### 令和4年度(2022年度)くまもとの笑顔・未来を創る児童生徒表彰

富 若奈(6)

### 熊本県高等学校体育連盟賞

牧 結菜(1) 水泳部 末田 凜(3) 女子バレー部  
西村 海晴(4) 水泳部 坂田 楓翔(5) 男子バレー部  
小田原海里(6) 陸上競技部 高濱 瑛英(6) 女子バレー部

### 熊本県高等学校野球連盟賞

坂口 皓哉(5)

### 熊本県高等学校文化連盟優秀芸術文化賞

西田 有那(5) 合唱部

### 熊本県高等学校文化連盟文化功労賞

和田 静奈(2) 放送部 竹下 奈穂(5) 放送部  
石山 友萌(6) 書道部

### 熊本県高等学校教育研究会図書館部会長賞

岩本 唯香(4) 濱 日菜子(4) 竹下 奈穂(5)

### 熊本県吹奏楽連盟功労賞

上田 あい(6)

### 熊本県高等学校保健会長賞

大山 愛結(3) 野村美佐希(4)

### 生徒自治会感謝状

宮川 花枝(1) 会長 徳永 陸人(5) 副会長

### 3カ年間皆勤賞(28名)

代表 井樋口 優(1)

1組 井樋口 優 西崎 直槻 宮川 花枝  
2組 伊藤 彩 高野 真穂 和田 紫聖  
3組 谷川 朱音 松下麟太郎 村本 龍信  
4組 三藤 瑞季 清水 菜々 西本 有希  
橋本明香利 本田 海門 村上 壮太  
5組 一村 悠太 甲斐 蒼志 北川 桃子  
久保田 凜 十河 明依 鶴田 健人  
6組 工藤 大輝 佐渡 麻衣 澤永 和真  
中才 直人 橋本みなみ 宮崎ゆつき  
山下日麻莉

## 中学卒業生

### 3カ年間皆勤賞(12名)

1組 浅川 華澄 有菌 和希 有村 綾真  
塚本 真央 平田 萌衣 村上 翼  
2組 池上 七花 岡部 侑樹 永井 心頼  
日隈 志保 古川 菜々 松永 哲

### 八代学校保健会(26名)

#### 優良賞

1組 榎田 光 谷口 凜桜 塚本 真央  
盛高 裕子  
2組 池上 七花 石川 とも 石田 皐彩  
笠原 紘 菊川 麗奈 濱田 雅  
淵川 創史 古川 菜々 増田 萌  
山下千絵莉 吉永 羽那

#### 奨励賞

1組 谷 さやか 鶴田 莉奈 松永 慶太  
宮本 和香  
2組 上田 凌空 岡部 侑樹 田口 愛紗  
平岡 栞奈 平田 花澄 藤井 真  
藤木 静菜

### 熊本県吹奏楽連盟功労賞

芝 凜々子(2)

### 生徒自治会感謝状(会長、副会長)

佐藤優依花(1) 石田 皐彩(2)

### 1カ年間皆勤賞(14名)

1組 油谷 龍哉 岡田 祐輝 境 彩蓮  
高田 瑞穂 嶽本 七生 田中 美昊  
谷 さやか 灰本 百花 松永 慶太  
宮本 和香  
2組 田中 芽依 遠山 美空 平岡 栞奈  
平田 花澄

### 八代小中特別支援学校書道展

#### 特選

1組 榎田 光 高田 瑞穂  
2組 池上 七花 増田 萌  
入選  
1組 浅川 華澄 植田 美優 松岡 長志  
宮本 彩加  
2組 笠原 紘 田中 芽依 古川 菜々  
村上 友唯

### 第66回西日本読書感想画コンクール

自由読書の部 入選 谷 さやか(1)

### 令和4年度第41回全国中学生人権作文コンテスト熊本県大会

入選 佐藤優依花(1)